
GTA主人公が幻想入り

Jason

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G T A 主人公が幻想入り

【Nコード】

N 5 2 2 5 Z

【作者名】

J a s o n

【あらすじ】

G T A L C S の主人公であるトニーシプリアーニが幻想入りし、数々の依頼をこなして、様々な事件に遭遇する物語です。G T A なので残酷なシーンが含まれます。

初投稿なので言い回しや文の構成がおかしかったりします。

Liberty city

リバティーシティー アメリカ最悪の街。

全体的に治安が悪く、凶悪犯罪が多発しており政治腐敗に麻薬売買、労働組合のストライキ

そして何よりも移民の人種ごとによる犯罪組織の抗争が激しく、それらを踏まえ“全米で最も成功できない都市”に八回も受賞するという不名誉な記録を持つ都市である

このリバティーシティーでも最も有力なマフィア「レオーネファミリー」の小飼いであるトニー？シプリアーニは人生で一度や二度しかないような不思議な現実に困惑してた。

さつきまで車窓から見えた建物が連なる景色から、深い木々が深く生い茂る景色に一変したのである。

主人公

トニーシプリアーニ

フルネームはアントニオ？シプリアーニ

リバティーシティーでも有力なマフィア「レオーネファミリー」に所属している。

極度のマザコンであり、母親のいうことは何でもする。

また、ファミリーの為ならどんな犯罪でもためらわないでやるが、それさえ除けば一般常識はある様。

ある「大物」を殺して一旦リバティーシティーを離れていたが、ほとぼりが冷めて帰ってきた。

本作の設定ではまだ下っ端扱いのままのチンピラ

性格は気が短く暴力的である。

主人公（後書き）

ただの主人公説明です…

幻想入り

リバティーシティーには三つの島がある。

「ポートランド」「ストートン島」「シヨアサイド？ベイル」

そのうちの工場地区のポートランドのセントマークス付近で、レオーネの特徴的な車

レオーネセンチネルを走らせていた。

レッドライト地区を縄張りとしている、シンダコファミリーを一掃した後だった。

シンダコは前まではレオーネの傘下にいたが、このごろになって激しく対立し、ここ数日には頻繁に銃声が鳴り響いている。

シンダコだけでなく中華街を拠点とするトライアド、ヒスパニック系ギャングのディアブロにも警戒しなければならぬ。

いずれにしても、近い内に対立するだろう…

そう思えてきたら腹がすいてきた。

そういえば今日はママのレストランで食事だったな…

ならば車を飛ばさないと トニーはアクセスを踏みこんだ。

万が一遅れたら何を言い出すかわからないからなあ トニーは苦笑いを浮かべる

センチネルにはどこにいても敵対ギャングに対応できるよう、銃器や手榴弾、火炎瓶、バットまである。

レオーネのボス「サルバトーレ」宅近くで車を飛ばし、信号無視を

しようとしたとき、10メートル先に妙な切れ目ができた。その切れ目がまた不思議で、空間を切り裂いてできてるよう

シンダコが新しい兵器を輸入あるいは、どっかの兵器生産工場からパクッてきたのか？

しかもレオーネのドンの家近くである

「冗談じゃねえ」

俺はその得体の知れないものを車と一緒に突っ込んで処理するといふ、自らを巻き込んでボスの安全を確保するという荒業にかけた

そして爆発による衝撃に備え、ハンドルに頭を突きつけ、脳みそはママだけのことでパンクしそうな時、突如それは起こった。

車ごとその切れ目に入っていったのだ。

勿論、トニーはそんなことを知らず頭をハンドルに預けたままその不思議な空間にセンチネルと共に、紫色の奥深くに行ってしまった。

その次の日にそれらを一部始終見ていた一般人が、その全てをリバイバー市警に話し、麻薬中毒者による幻覚と判断され、警棒でボロボロにされた挙げ句、署に引張られたのは言うまでもない、

幻想入り（後書き）

改めて見ていたが、文が酷い???

まあそれは置いときご感想をお待ちします。

どんな批判でも結構です。

ただ、ここをこうした方がいいとか訂正を言ってくださったらなおさら嬉しいです…

紫の憂鬱

八雲紫は落胆していた。あまりのショックに毎日自分の式が作る朝食に手をつけられなかったほどである。

主人の異変に気がついた八雲紫の式である八雲藍はこの重たい空気を破ろうと原因を聞いてみたが、はっきりとした答えが返って来ない。

ただ重苦しい雰囲気はその場を支配していた…

八雲紫には能力がある。「境界を操る程度の能力」

境界と名の付くものなら何でも支配下におけることができる。いわゆるよくいわれるチート能力である。

また彼女はその能力を使い、外の世界に行くこともしばしば。

事の発端はここから生まれたのである。

外の世界（人間達）はいつ見ても新鮮だ。

身体能力は到底妖怪に勝ち目はないが、彼らは驚くべき頭脳を持つ

ている。
そこから派生し、科学力が進歩、そして今に至る。

紫は外の世界のことはある程度把握している。

だから今度も自ら能力の使い、空間の境界を操り外の世界を鑑賞しようとしてみた。

だが、彼女が“アメリカ最悪の街”にスキマが繋がるとは思ってみなかつた…

リバティーシティーは「全米で最も成功できない都市」といわれている。

また“最も盗難？強盗被害に遭遇しそうな”都市であり、“最も環境汚染による病気で死亡しそうな”都市であり、“最もアルコール？麻薬中毒になりそう”で、何よりも“マフィアの銃撃戦の流れ弾に当たそう”な都市であると認識されている。

スキマからリバティーシティーを覗いた感想は“空気がかなり汚れており”なによりも驚くべきことは、治安の悪さ

街中に響く銃声、それに逃げまとう人々、
交通事故、まさに生き地獄である。

しかしながら紫の目には失望感ではなく、だんだんこの街に対し興味を持つようになった。

彼女が今まで見てきた外の世界は全て治安が良く、平和そのものだった。

それらと連動し、対比することによって、なおさら興味が湧いてきた。

車が通る道路に5?くらいのスキマを開けて、車が目の前にスレスレにくるスリル感を味わうという、子供が喜ぶような遊びをしていたことが間違だった。

遊びが全盛期をむかえた刹那起こった。

焦げ茶色の服を着た男達3名くらいが、紫の近くにいた全身黒づくめの男達にいきなり発砲したのだ。

その場は一変し、銃声が轟く銃撃戦に成り変わる。

さつきまで普通に歩いていた住民達は先を競って逃走し、中には車を乗り捨てる人間もいた。

「嫌な場所に出くわしちゃったわね」

独り言を呟きその場を逃れる為、早々とスキマを閉じようとした。

だか肝心の腕が動かない 拳がらない

おかしいと思いつながら、自分の腕を見て驚愕してしまった。

おびただしい量の血が服を染み込み、細長い腕を伝い、足下に垂れていたのである。

気づいた時は腕に激痛が襲ってきた。多分、今繰り広げられてる銃撃戦に巻き込まれ、流れ弾に当たったのだろう。

咄嗟の出来事だったので、頭がうまく回転しない。でも傷の深さぐらい見ておくべきかしら? スキマの中は暗くわかりにくい。彼女は明るさを求め、スキマを大きく開けた。

瞬間の判断かあるいは咄嗟の出来事に興奮してたのか、スキマを2メートルくらい大幅に広げてしまったのである。

彼女はあわてて縮小しようとした。

だが一台の車が物凄い勢いで此方に向かってくるではないか！
まるで此方に突っ込んでくるように。

結果、紫色の薄気味悪い空間に黒い車が入りこみ、紫の間へと消えていった。

紫の憂鬱（後書き）

表現力が …

これは酷い作品になりそうだ

どうでもいい作者の好きなLCSキャラランキング

1位 トニーシプリアーニ

まあ、好きじゃなかったらこの作品は成立しない

2位 ドナルド？ラブ

え？変態だつて？ いや、キャラ濃くていいジャン

3位 ミッキー？ハムフィスツ

よく見るとイケメン

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5225z/>

GTA主人公が幻想入り

2011年12月18日09時56分発行